

東京国際空港（羽田空港）周辺海域における貧酸素の 状況について（春から秋にかけての情報提供）

トピックス

東京国際空港（羽田空港）の4本目の新たな滑走路となるD滑走路建設工事の実施にあたっては、工事による水環境への影響の有無を適切に把握するため、環境監視計画〈工事中〉に基づく環境モニタリング（環境監視地点での水質測定）を工事着工の平成19年3月30日から毎日実施しています（図－1参照）。

このうち、溶存酸素（DO）濃度については、例年、夏季に底生生物の生息が困難と考えられている2～3mg/リットル以下の低い溶存酸素濃度（貧酸素の状況）が観測されている羽田空港周辺海域において、今年度も6月上旬から10月中旬まで貧酸素の状況が継続していましたが、11月上旬から、概ね3mg/リットル以上のDO濃度に回復する傾向を確認しました（図－2参照）。

水温については、4月中旬より上層・中層と底層との水温の差が大きくなり、この傾向が10月上旬まで継続しました。10月中旬からは、上層・中層と底層との水温の差が小さくなり、各層の水温が同様の傾向で低下していることを確認しました（図－3参照）。

平成20年12月17日（水）

国土交通省関東地方整備局 東京空港整備事務所

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所
D滑走路プロジェクト推進室 竹田・近藤・中島
住所 東京都大田区羽田空港3-5-7 メンテナンスセンターアネックス 5階
電話 03-5756-6575
HP <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/>

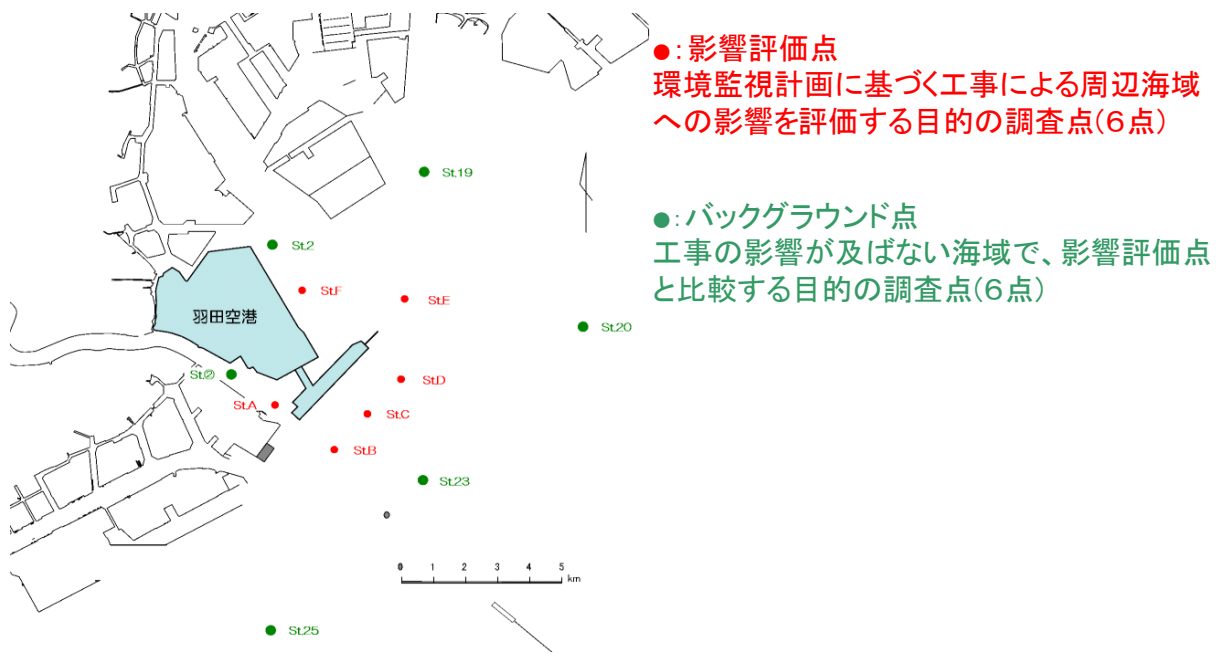


図-1 環境監視地点

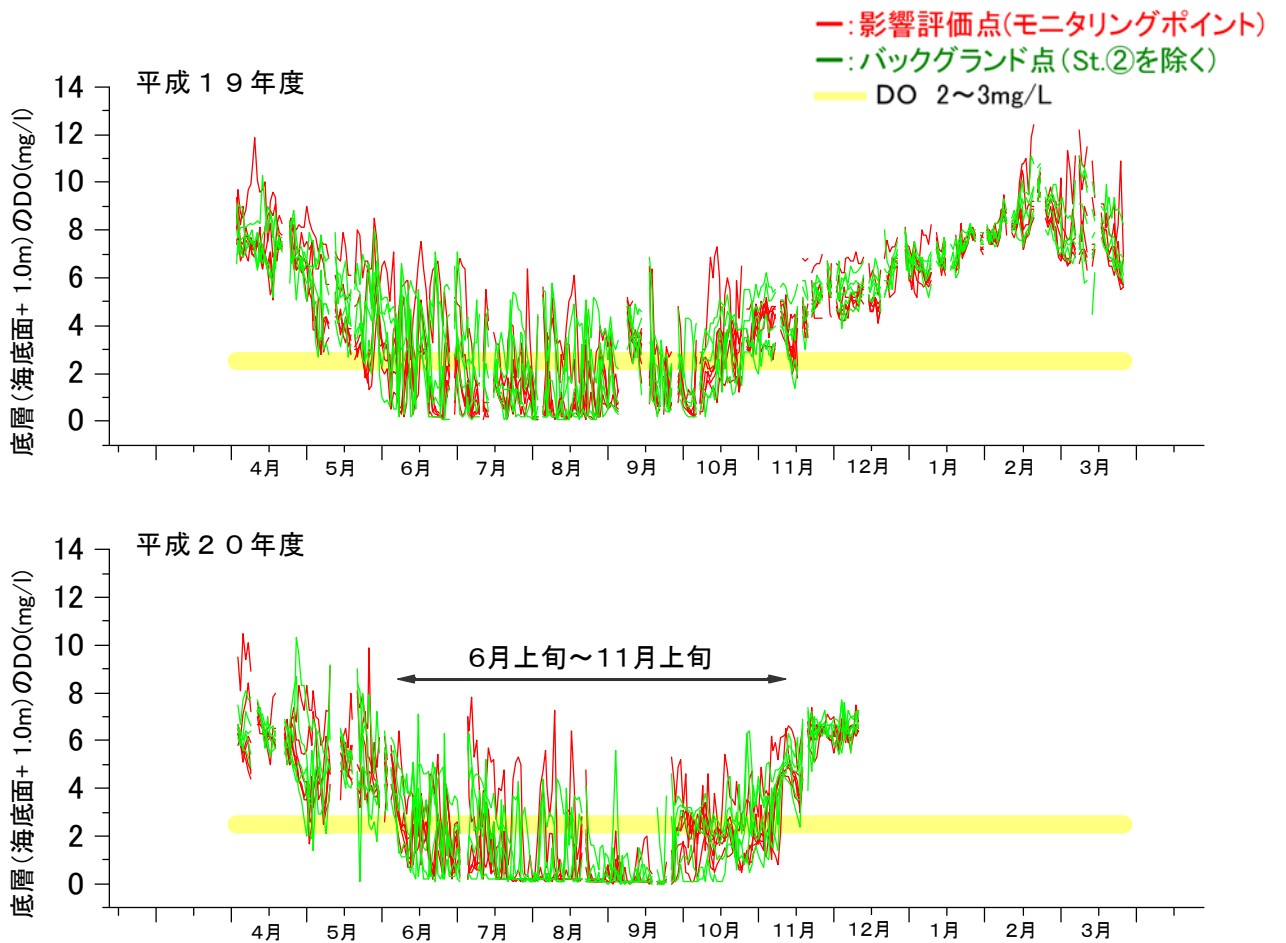
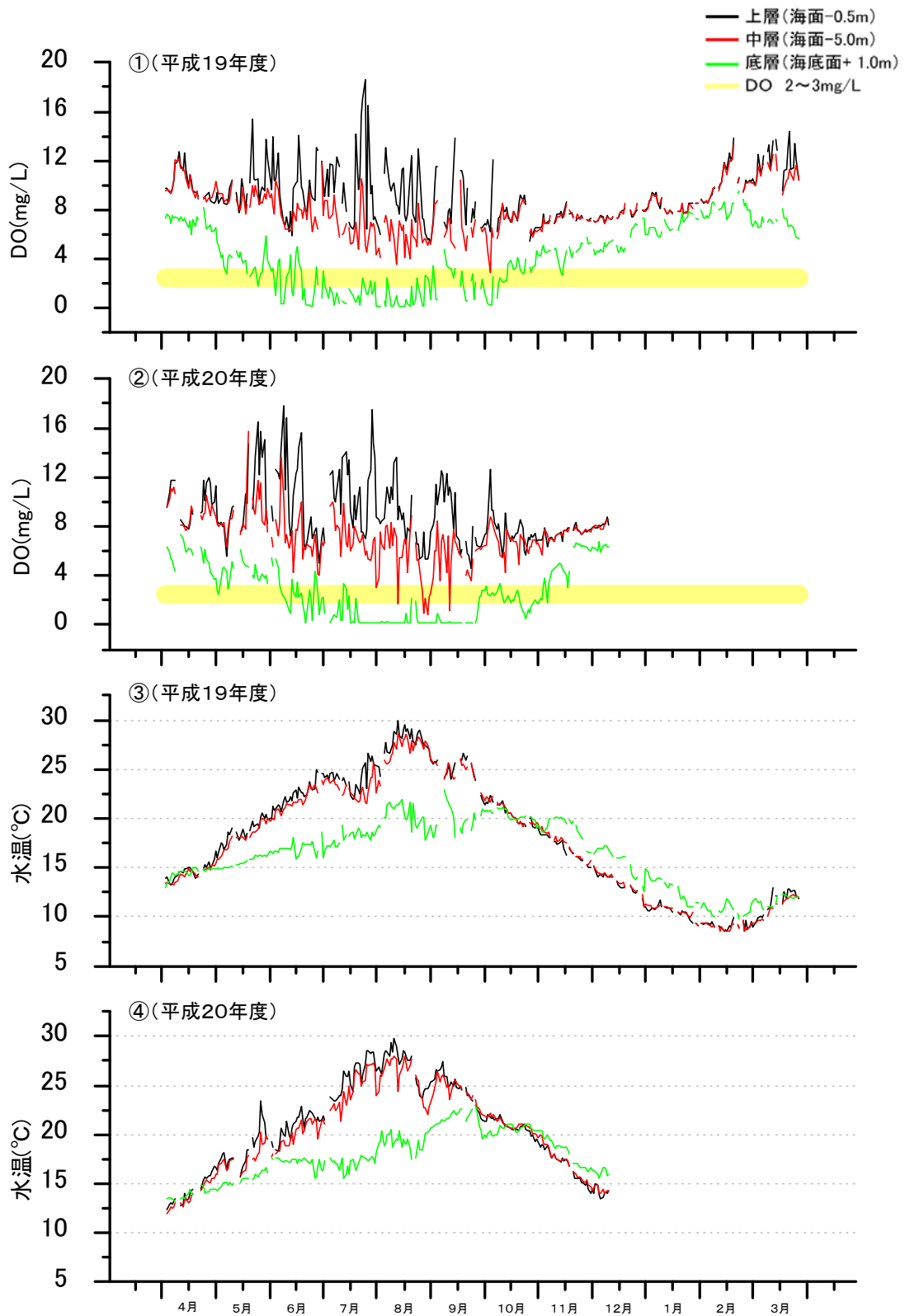


図-2 羽田空港周辺海域の底層(海底面+1.0m)における溶存酸素(DO)濃度の観測結果



- ① 平成19年度 DO(mg/l)の観測結果
- ② 平成20年度 DO(mg/l)の観測結果
- ③ 平成19年度 水温(°C)の観測結果
- ④ 平成20年度 水温(°C)の観測結果

図-3 St. Cにおける溶存酸素(DO)濃度と水温の観測結果